

# かるがも



第19号

発行所 千葉県こども病院  
〒266-0007 千葉市緑区辺田町 579-1  
TEL 043-292-2111  
FAX 043-292-3815  
<http://www.kodomo.umin.jp/>

## 新年のご挨拶 ◇◇ 成人期を迎えるこども病院 ◇◇



病院長 伊達裕昭



今年の新年は天候にも恵まれて、県内の随所で初日の出を楽しまれた方も多かったことと思います。本年が皆様にとって穏やかな一年になりますようお祈り申し上げます。



天候の穏やかさとは裏腹に、今冬は全国的に過去20年間で最速といわれるほどインフルエンザの流行が早く、県内でも早々と学級閉鎖になった学校が出ました。またノロウイルスに代表される冬期の感染性胃腸炎も12月に入り増加して集団発生も報告されています。千葉県は昨年末にインフルエンザ注意報と感染性胃腸炎警報を出して、県民に予防対策の徹底と注意を呼びかけています。昨秋の時点でも収束していない麻疹(はしか)患者発生の状況からみて、この春の麻疹の再流行も危惧されており、この冬から春にかけての感染症発生動向には十分な注意が必要です。皆様も外出時のマスク着用や手洗い、うがいの励行などとともに、日頃から食事や休養に気を配り、体調の維持にお努め下さい。(参考:千葉県感染症情報センター <http://www.phlchiba-ekigaku.org/> 国立感染症研究所感染症情報センター <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)



さて、今年、平成20年の干支は子(ね)年で、十二支の始まりに当たります。中国の「漢書」によると「子」という字には「ふえる」という意味があり、新しい生命が種子の中に萌(きざ)し始める状態を表しているとされます。後世、覚え易くするためにこどもがたくさん産まれて子孫繁栄につながる動物としてネズミが割り当てられたということです。昨年の亥(い)年はなぜか災害の多い年として知られ、前回の亥年には阪神・淡路大震災がありましたし、昨年も3月に能登半島地震、7月に新潟中越沖地震があっ

たことはまだ記憶に新しいところです。今年は「子」年に因(ちな)んで、新しい生命に満ちあふれ、たくさんのお子ども達の笑顔が見られる活気ある一年になって欲しいものです。

年号が平成に変わってから20年が経過するのと同時に、昭和63年(1988年)10月に開院した当院も、今年が20年目の節目の年を迎えることとなります。この病院も成人の年齢に達するわけです。



開院以来、今日にいたるまで病院は様々な面で変化を続けてきました。開院時には無かった家族用の宿泊施設「かるがもはうす」の建設や新しい駐車場の増設、外来図書コーナーの設置など、施設の整備や拡充はもとより、病院敷地内の全面禁煙化や病院内での携帯電話の使用、面会時間帯の拡大にいたるまで、ささやかで目立たない部分の変化であったとしても、それは利用される方の便宜を考慮したうえでの病院としての成長であったと考えています。さらに今後の電子カルテへの移行を見据えて、昨年末からはオーダーリングシステムという医療のコンピュータ化も進めており、病院はより成熟した機能をこれからも提供できるように成長を続けます。



振り返れば、この20年は医学の進歩に伴い検査や治療も革新的に変化し、情報も増加して医療の安全に関する要望が急速に高まった時期であるとともに、「バブル経済の崩壊」に連なる「喪われた10年」とも重なる期間で、医療現場に費やすことができる人も費用も、国の政策により抑制され続けた年月であったように思います。我が国の医師の数は人口1,000人に対して2.06人(OECD加盟国平均3.10人)、GDP(国内総生産)に占める医療費の割合は8%(OECD加盟国平均8.9%)の数字がそれらを物語っています。そうした20年間にあっても、病院が少しずつでも変化＝成長できたことは、多くの先達や同僚が地道な努力を重ねた結果と、職員とともに一緒になって病院を育てて下さった周辺医療機関や利用者の皆様の協力の賜物であると思います。これからも県内の小児医療の中心的存在として、現在の機能をさらに高めて病院としての成長を続けるためにも、今後より一層のご支援とご協力をお願いして、年頭のご挨拶に代えさせていただきます。

平成20年1月